

# 平成24年度 学校自己評価システムシート ( 県立浦和西高等学校 )

目指す学校像	・自主自立の育成と高い学力を身につけた生徒を育て、社会に貢献できる人材を育成する。 ・地域との連携をはかり、開かれた学校づくりを実現する。
--------	--

重点目標	職員組織の活性化「チーム浦和西」の基に、次の目標を実現する。 1 高い学力の定着と進路指導の充実 2 地域に開かれた学校づくり 3 自主自立を学び、自らを律することのできる生徒の育成
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	11名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )		
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	
学 校 関 係 者 からの 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等							
実 施 日 平 成 2 5 年 2 月 2 3 日							
1	進路希望を実現する生徒は増加傾向にある。一方で次のような生徒も見受けられる。 ・家庭学習の時間が少ない生徒 ・安易に目標を下げてしまう生徒 ・目標実現のための努力を怠る生徒 ・学校行事後の切り替えができない生徒	学力の向上と進路希望の実現	1・担任面談やグローバル講演会、高い志を育てる大学出張講座など様々な機会を通じ、生徒の学習意欲を高める。 2・生徒による授業アンケートを行い教員の授業力向上に活用する。 ・年間を見通した計画的、組織的な補習を行う。 3・1学年のスプリングセミナーや行事後の切替指導、3学年のセンター試験直前集会など、各学年のそれぞれの時期に応じた進路指導、学習指導を的確に行う。	1・家庭学習時間が確保されているか。 2・成績優良者が増えたか。 ・朝学習や補習に参加する生徒が増えたか。 3・センター試験受験者数が9割を超えているか。 ・センター試験で全国平均点を上回ったか。 ・国公立大学に現役で40名合格したか。 ・難関大学に2名以上合格したか。	学習時間の増加及び学習意欲の向上。目標値を超えた進路実績。 1 三者面談期間を設定するなど複数回の面談を実施した。大学出張講座等では内容を生徒へ事前に提示して生徒の参加意欲を向上させた。学習状況調査を5回実施した。1、2年ともに家庭学習時間が増加し、2年生は75%が2時間以上を達成した。 2 生徒による授業アンケートを2回実施し、教員相互の授業観察を延べ136回(平均2.2回、昨年比7倍)実施した。朝学習への参加者数は1、2年ともに大幅に増加して1年は300名となった。2学期の成績優良者数が1学期より増えている。 3 行事後の切替指導は概ね良好で、特に2年の修学旅行後には土曜日等の「集中学習会」などの取組を実施し効果的であった。 センター試験の受験者数は91.4%で9割を超えた。平均点も大きく上昇し全国平均を上回った。国立出願者数も延べ136名となった(合否は今後)	A	1 データの生徒への還元や大学出張講座等の啓発的進路学習の情報提示については有効なので更に充実させたい。 2 模試の成績が2年の2学期までは下降してそこから上昇するという本校の傾向は今年も課題として残ったが下降幅は減少しており学年毎にその改善が進んでいる。 3 早い時期に安易に私立文系に決めることがその後の伸び悩みにつながる傾向がある。 センター入試への組織的指導を更に具体化する。
2	近隣小中学校との交流事業では高い評価を受けている。しかしさまざまな取組の周知がまだまだ十分であるとはいえない。	県民・地域・中学校に期待される学校づくり	1・集会などを通じて登下校のマナー向上を呼びかけ、指導していく。 ・中学校訪問を積極的に行い、取組を紹介する。 ・斜面林活動に生徒も参加するよう促す。 2・ネット commons を有効活用する。	1・学校説明会や土曜公開授業参加者が増加したか。 ・近隣中学校からの志願者が増加したか。 2・ホームページの更新頻度やアクセス数が増加したか。	地元住民の信頼の向上。学校HPの内容充実によるアクセス増加。 1 教員、生徒による登校指導を毎日行った。PTA役員によるあいさつ運動を行った。 体育館改修のため学校説明会は中規模の施設しか使えなかったが、学校説明会・見学会の参加者数は2722名で昨年とほぼ同数であった。土曜公開授業は1650名(昨年比+679名)に増えた。彩の国「進学フェア」での学校案内の配布数は4400部(昨年比+900部)となった。 2 学校説明会等の申込に学校HPを活用した。学校HPの更新は月平均9回、アクセス数は1日平均450回であった	A	1 進学フェアでのニーズも高いので学校案内は6000部を作成したい。 2 閲覧者が見たい情報(部活動など)を更に随時更新する。
3	素直で明るい生徒が多い。一方で次のような生徒も見受けられる。 ・自分を律することのできない生徒 ・自由をはき違えている生徒 ・学校に相応しい身だしなみができない生徒 ・挨拶ができない生徒 ・部活動に参加しない生徒	チャレンジ精神・ハングリー精神を持ち、自立(自律)できる人材の育成	1・遅刻者には特別指導をする。 ・生徒会のノー遅刻デーをサポートする。 ・ノーチャイムで時間を自分で管理する力を身につける。 2・入部状況調査を適宜行って途中入部を勧める。面談を行って退部者を減らす。 3・学校行事のリーダーを育成する。	1・遅刻者が減少したか。 2・1、2年生の部活動加入率が80%以上であるか。 3・適切な指導のもとで生徒主体による自主自立の学校行事が実施できたか。	大きく減少した遅刻者。身だしなみについての継続指導。 1 遅刻指導を全学年統一して行った。遅刻者数は2233名(2学期末現在、昨年比27%減、特に3年は40%)に減少した。服装・頭髪も改善が進んでいる。 ノーチャイムを二学期から実施した。 2 部活動加入率は1年87%、2年82%で80%を超えた。3年は65%であったが、引退まで学業との両立が図られた。 3 体育祭・文化祭ともに前年度から執行部有志による活動を開始した。	A	1 遅刻指導は全学年共通の指導が有効なので継続する。頭髪指導も全学年統一の指導へ進めていく。 2 新入生の部活動への入部を強く進める。 3 今後も自主自立の意味を理解させ、リーダーを育成していく必要がある。

学校関係者からの意見・要望・評価等

- かつては授業で集中できない生徒や眠ってしまう生徒が一部にいた。今は全員が集中している。授業のペースも速くなったと感じたが生徒はよくついてきている。
- 様々な取組をしており、今後良い方向へ大きな変化をするかもしれないと感じた。
- 2年生の集中学習会の取組は、成績の上の生徒だけでなく全員で頑張るという雰囲気があった。
- 更に県の上位校と伍していくためには、生徒の「プライド」を育てることが大切と思う。
- 朝、教員が登校中の指導をしており、交通マナー・態度が随分と良くなっている。ただしマナーがまだの生徒もいるので今後も指導の継続・改善が必要だと思う。あいさつ運動・交通安全指導にはPTAも参加した。生徒と係わることが大切だと感じた。
- 地域の人による斜面林活動などに生徒も係わってくれた。生徒との係わりを大切にしたい。
- 入試の倍率は、学校の魅力の表れなので高くあって欲しい。
- 昔は遅刻者が多かったが、今は様変わりして遅刻者がほとんどいない。
- 環境は人を変える。昔は廊下も教室もゴミが多かったが今はきれいになった。新しく設置した時計の形が良い。木々が多く自然環境も良い。
- 個性も大切にしたい。個性的な卒業生による講演会なども有効だと思う。
- 個性的な進学校を目指して欲しい。
- 生徒が自ら「自主自立」をもっと自覚して欲しい。